

## “日本と長野県の将来像”

日本の国は、民主党中心の政府により、場当たりの国家運営のもと危機的な状況を迎えていると認識しています。そこでこの国を救い、自信と誇りを回復して次世代に引き継いでいくために以下の3つの視点から国のビジョンを確立していくことを提言します。

まずは、『今を生きる皆さんへの支援』です。

“安心安全な国家づくり”のため、歴史的な経済危機による経営不安や雇用不安に対し、内需型産業への支援を重視し、国民の利益が国内で循環するよう産業構造の転換を図ることが重要です。施策として医療・福祉に携わる人材の育成、真に国民が必要とする公共事業の確保、国内ですべての国民の食糧をまかなう農業への再生などを推進します。

2点目としては、『今日の繁栄を築いた皆さんへの感謝』です。

“福祉中庸な国家づくり”のため、低負担高福祉という若年世代に負担が偏りすぎた福祉から、国家は巨大な割り勘組織であるとの共通理解を各世代間で育み、受益と負担を明確にした福祉施策に改める必要性があります。施策として消費税増税分のすべてを福祉・医療目的として活用することなどを推進します。

3点目としては、『次世代を担う皆さんへの責任』です。

“質実剛健な国家づくり”のため、自分の国や地域、生活は自分で守るとの意識を育み、責任感覚や日米同盟を根幹としての国際感覚、さらには儒教的な教えを取り入れた道徳観あふれる国柄を目指します。施策として国や地域社会に対して果たさねばならない社会的責任や義務を身につけさせる教育や起業家精神の育成などを推進します。

次に長野県に関しては、基幹産業である“製造業・農業・観光業”への支援と強化が重要です。

地域間競争が激しくなっている現在、他の地域では絶対に真似することのできない分野に取り組んでいくことが必要です。例えば、本県の長い日照時間を生かした太陽エネルギーに関する研究機関や企業誘致、育成があります。

また、信大付属病院や五県立病院、さらには厚生連、日赤などの病院を目玉にし、医療・医薬品の分野でも漢方を中心とした研究機関や企業誘致が挙げられます。特にこの分野は、遊休地での薬草栽培といった農業分野、さらに医療観光など本県の基幹産業すべてに好循環をもたらすことが可能です。

基幹産業を充実強化することにより、若者の就労の場が確保され、定住増が見込めます。さらに県税収入の安定的な確保が図られ、それを高齢者医療や福祉、子育て支援の充実に活用し、他都道府県との差別化を推進します。

## “応募理由と自己のセールスポイント”

昭和20年の敗戦後、「欧米に追いつけ・追い越せ！」を合言葉に右肩上がりの経済成長を続け、世界第2位の経済大国にまで駆け上がった日本が、今、傾いています。額に汗して懸命に働き、会社や地域、さらには日本の発展に寄与してきた国民にとって耐えられない現実が横たわっています。特に今の社会を背負って立たなければならない世代にとっては、自分の家庭や地域、国の将来に関してこの上ない不安が襲っています。

「経済は一流、政治は三流」と揶揄され、“Japan as No.1”と世界に冠たる繁栄を目指してきた日本は、政治に頼ることなく、経済的な富の拡大に特化した国家運営に励んできました。資本主義、民主主義の国でありながら経済の力にものを言わせ、社会主義の国かと思紛うほどに国民福祉を重視したことによる権利ばかりの主張、その下での福祉のばらまきによる政府の肥大化と地方自治体の疲弊、さらには大きな政府を修正するために取り組んできた行き過ぎた規制緩和による企業間同士、地域間同士の“勝ち組・負け組”と言われるような格差拡大。このような国家をつくってきた（積極的につくってはこないとしても放任してきた）ツケを今、払わされています。

私は、本来のあるべき政治の目的と役割は、「国民に権利と義務、すなわち受益と負担の相互関係をしっかりと理解していただいた上で格差の少ない社会をつくること」との信念に基づき、今まで日本の政治に欠けていた責任感覚、国際感覚、歴史感覚をしっかりと持ち、国の進むべき道を誤らないよう国政運営をしていきたいとの思いからこの度の選挙区支部長公募に応募いたします。

さて、私は、二世・三世などの世襲議員ではありません。また、中央官僚のように長らく故郷を離れていた者でもありません。

大学で政治学を学び、その後、松下政経塾で志を同じくする者同志、現地現場主義の教えのもと、全国各地や米国などで研鑽を積み、28歳で佐久市議会議員[2期]さらには38歳で長野県議会議員[現在2期目]として地域に密着した政治活動を続けています。

松下政経塾の塾是である「人類の繁栄幸福と世界の平和に貢献しよう」との志を常に心に抱きながら、一方で、地道に市民や県民の生の声に耳を傾けて、地方政治を実践してきた自信があり、この点については、人後に落ちないとの自負があります。以上が、今回の応募に当たりましての私のセールスポイントです。